

AI音声で農業を支える米集荷効率化プロジェクト

株式会社舞台ファーム（宮城県仙台市）

農業 資本金5000万円 従業員数154名

会社概要

「未来の美味しいを共に創る。」を理念に掲げ、高度な栽培技術と最新設備を駆使した野菜・米の生産、カット野菜などの加工販売、農業コンサルティング、再生エネルギー事業などを展開。

AI音声で農業を支える米集荷効率化プロジェクト



電話と紙に依存した集荷受付は転記ミスや人手不足を招き、高齢農家は複雑な操作が壁でデジタル化から取り残されていた。そこで音声認識AI×LINEの米集荷アプリを内製し、話すだけで申請・復唱確認後に自動反映。短期・低コスト開発で現場主導の改善サイクルを確立し、他業務へ展開、誰でも使えるモデルケースとなった。

取組の背景は？

米集荷は、農家からの電話内容を紙に記録し、後でシステムへ再入力する非効率な運用で、さらに高齢農家には操作が壁となり、デジタル化の恩恵を受けにくい状況が継続。そこで「電話で話すだけで、負担なく確実に完了する仕組み」を目標に、電話体験に寄せたUX、現場で即改善できる内製体制を目指した。

具体的な取組内容は？

農業現場では、米集荷を含む多くの業務が電話と紙に依存し、受付→記録→転記→集計という多重作業が非効率になっていた。そこで当社はAIエージェントを活用し、米集荷専用アプリを自社開発。音声認識で農家の申請内容（品目・数量・希望日時・連絡事項など）を構造化データに変換し、AIが要点を復唱して確認・修正できる導線を設計した。確定した内容は自動でデータベースに登録され、担当者は管理画面で当日の集荷予定、地域別の件数、変更履歴をリアルタイムに把握できるようになった。さらにLINE連携で受付・通知・変更連絡を一元化し、担当者・ドライバー向けの指示共有やデータ出力も自動化。運用しながら改善できる内製体制で継続的にUXと精度を磨き、業務の省力化と品質向上を進めた。

工夫したポイントは？

工夫したポイントは、誰でも迷わず使えるUX設計と、現場起点で高速に改善できる開発手法を両立した点。高齢農家でも従来の電話感覚のまま完了できるよう、音声認識AI+LINE連携で「話すだけ」の導線に統一。誤認識の不安は、AIが内容を復唱してその場で修正できる仕組みで最小化した。加えて、集荷データは自動で構造化・集計・可視化され、担当者の再入力や集計負担を解消。さらに開発手法として、外注前提をやめAIエージェントを活用して内製化し、現場担当と開発担当が対話しながら「課題ヒアリング→設計→実装→改善」を短周期で回す体制を確立。小さな修正を即反映できることで、短期間・低コストで成果を出し、他業務・他地域へ横展開しやすい形に仕上げた。

効果は？

効果は、集荷受付の工数削減とミス低減、そして高齢農家の利用定着。電話→紙→再入力を自動化し、集荷業務は1日30分から5分へ短縮。復唱確認で転記ミスや再配送リスクを大幅に抑えた。LINE連携で連絡も一元化し、担当者の負担軽減と運用品質向上につながった。